

IX 予警報の種類と発表基準

1 すべての予警報（津波に関する予警報を除く。）

(1) 特別警報

種 類		発 表 基 準	
特 別 警 報	大雨特別警報	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合	
	暴風特別警報	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により	暴風が吹くと予想される場合
	高潮特別警報		高潮になると予想される場合
	波浪特別警報		高波になると予想される場合
	暴風雪特別警報	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	
	大雪特別警報	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	

(注) 過去の災害事例に照らして、指数（土壌雨量指数、表面雨量指数、流域雨量指数）、積雪量、台風の中心気圧、最大風速などに関する客観的な指標を設け、これらの実況および予想に基づいて発表を判断する。

ア 雨を要因とする特別警報の指標※1

以下(ア)又は(イ)いずれかを満たすと予想され、かつ、更に雨が降り続くと予想される場合に、大雨特別警報を発表する。

(ア) 48 時間降水量及び土壌雨量指数において、50 年に一度の値以上となった 5km 格子が、共に府県程度の広がり範囲内で 50 格子以上出現。

(イ) 3 時間降水量及び土壌雨量指数において、50 年に一度の値以上となった 5km 格子が、共に府県程度の広がり範囲内で 10 格子以上出現（ただし、3 時間降水量が 150mm 以上となった格子のみをカウント対象とする）。

イ 台風等を要因とする特別警報の指標

「伊勢湾台風」級（中心気圧 930hPa 以下又は最大風速 50m/s 以上）の台風や同程度の温帯低気圧が来襲する場合に、大雨、暴風（雪を伴う場合は暴風雪）、高潮、波浪の特別警報を発表する。

ウ 雪を要因とする特別警報の指標※2

府県程度の広がりをもって 50 年に一度の積雪深となり、かつ、その後も警報級の降雪が丸一日程度以上続くと予想される場合に大雪特別警報を発表する。

※1 雨に関する各市町村の 50 年に一度の値

地 域				50 年に一度の値 (mm)		
府県予報区	一次細分区域	市町村等をまとめた区域	二次細分区	48 時間降水量	3 時間降水量	土壌雨量指数
愛知県	西部	知多地域	東海市	428	174	260

※2 50 年に一度の積雪深と既往最深積雪深

府県予報区	地点名	50 年に一度の積雪深 (cm)	既往最深積雪 (cm)
愛知県	名古屋	23	49

(2) 警報及び注意報

種 類	概 要 ・ 発 表 基 準
警 報	大雨警報 大雨による重大な災害が発生するおそれがあると予想される場合。 大雨警報には、大雨警報（土砂災害）、大雨警報（浸水害）、大雨警報（土砂災害、浸水害）のように、特に警戒すべき事項が明記される。 ・発表基準 （浸水害）表面雨量指数基準 17 （土砂災害）土壌雨量指数 159
	洪水警報 大雨、長雨、融雪等により河川が増水し、重大な災害が発生するおそれがあると予想される場合。対象となる重大な災害として、河川が増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による重大な災害があげられる。 ・発表基準 流域雨量指数基準 13.6（大田川流域）
	大雪警報 大雪により重大な災害が発生するおそれがあると予想される場合。 ・発表基準 12時間降雪の深さ 10 cm
	暴風警報 暴風により重大な災害が発生するおそれがあると予想される場合。 ・発表基準 平均風速 陸上 20m/s 海上 23m/s
	暴風雪警報 雪を伴う暴風により重大な災害が発生するおそれがあると予想される場合。「暴風による重大な災害」に加えて「雪を伴うことによる視程障害等による重大な災害」のおそれについても警戒を呼びかける。 ・発表基準 平均風速 陸上 20m/s 雪を伴う 海上 23m/s 雪を伴う
	波浪警報 高い波により重大な災害が発生するおそれがあると予想される場合。 ・発表基準 有義波高 3.0m
	高潮警報 台風や低気圧等による海面の異常な上昇により重大な災害が発生するおそれがあると予想される場合。 ・発表基準 潮位 2.9m
注 意 報	大雨注意報 大雨により災害が発生するおそれがあると予想される場合。 ・発表基準 （浸水害）表面雨量指数基準 10 （土砂災害）土壌雨量指数 108
	洪水注意報 大雨、長雨、融雪等により河川が増水し、災害が発生するおそれがあると予想される場合。 ・発表基準 流域雨量指数基準 10.8（大田川流域） ・複合基準 表面雨量指数 5 流域雨量指数 10.8（大田川流域）
	大雪注意報 大雪により災害が発生するおそれがあると予想される場合。 ・発表基準 12時間降雪の深さ 5 cm
	強風注意報 強風により災害が発生するおそれがあると予想される場合。 ・発表基準 平均風速 陸上 13m/s 海上 16m/s
	風雪注意報 雪を伴う強風により災害が発生するおそれがあると予想される場合。「強風による災害」に加えて「雪を伴うことによる視程障害等による災害」のおそれについても注意を呼びかける。 ・発表基準 平均風速 陸上 13m/s 雪を伴う 海上 16m/s 雪を伴う
	波浪注意報 高い波により災害が発生するおそれがあると予想される場合。 ・発表基準 有義波高 1.5m
	高潮注意報 台風や低気圧等による海面の異常な上昇により災害が発生するおそれがあると予想される場合。 ・発表基準 潮位 1.7m
	濃霧注意報 濃い霧により災害が発生するおそれがあると予想される場合。 ・発表基準 視程 陸上 100m以下 海上 500m以下

種 類		概 要 ・ 発 表 基 準
注 意 報	雷 注 意 報	落雷により災害が発生するおそれがあると予想される場合。また、発達した雷雲の下で発生することの多い竜巻等の突風や「ひょう」による災害についての注意喚起が付加されることもある。急な強い雨への注意についても雷注意報で呼びかけられる。
	乾 燥 注 意 報	空気の乾燥により災害が発生するおそれがあると予想される場合。具体的には、火災の危険が大きい気象条件を予想される場合。 ・発表基準 最小湿度 30%で、実効湿度 60%
	な だ れ 注 意 報	「なだれ」により災害が発生するおそれがあると予想される場合。
	着 氷 (雪) 注 意 報	著しい着氷(雪)により災害が発生するおそれがあると予想される場合。具体的には、通信線や送電線、船体等への被害が起こるおそれのある場合。
	融 雪 注 意 報	融雪により災害が発生するおそれがあると予想される場合。具体的には、浸水、土砂災害等の災害が発生するおそれのある場合。
	霜 注 意 報	霜により災害が発生するおそれがあると予想される場合。具体的には、晩霜により農作物への被害が起こるおそれのある場合。 ・発表基準 晩霜期最低気温 3℃以下
	低 温 注 意 報	低温により災害が発生するおそれがあると予想される場合。具体的には、低温のために農作物等に著しい被害が発生したり、冬季の水道管凍結や破裂による著しい被害の起こるおそれがある場合。 ・発表基準 冬季に最低気温が -4℃以下
全 般 気 象 情 報 東 海 地 方 気 象 情 報 愛 知 県 気 象 情 報	気象の予報等について、特別警報・警報・注意報に先立って注意を喚起する場合や、特別警報・警報・注意報が発表された後の経過や予想、防災上の注意を解説する場合等。	
土 砂 災 害 警 戒 情 報	愛知県と名古屋地方気象台が共同で発表する情報で、大雨警報（土砂災害）発表中に、大雨による土砂災害発生危険度が更に高まった時、市町村長が避難指示等を発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう市町村ごとに発表する。 土砂災害警戒情報に加え、大雨特別警報（土砂災害）が発表されているときは、避難指示等の対象地区の範囲が十分であるかどうか等、既に実施済みの措置の内容を再度確認し、その結果、必要に応じて避難指示の対象地域の拡大等の更なる措置を検討する必要がある。	
記 録 的 短 時 間 大 雨 情 報	県内で、数年に一度程度しか発生しないような猛烈な短時間の大雨を観測（地上の雨量計による観測）又は解析（気象レーダーと地上の雨量計を組み合わせた分析）したときに愛知県気象情報の一種として発表される。 ・発表基準 1時間雨量 100 mm	
竜 巻 注 意 情 報	積乱雲の下で発生する竜巻、ダウンバースト等による激しい突風に対して注意を呼びかける情報で、雷注意報が発表されている状況下において竜巻等の激しい突風の発生する可能性が高まった時に、愛知県（西部・東部）に発表される。 また、竜巻の目撃情報が得られた場合には、目撃情報があった地域を示し、その周辺で更なる竜巻等の激しい突風が発生するおそれが非常に高まっている旨を発表する。 ・情報の有効期間 1時間	
異 常 天 候 早 期 警 戒 情 報	気象情報のうち、平年から大きくかけ離れた気象状況が数日間またはそれ以上の長期間にわたって続き災害の発生する可能性がある等、社会的に大きな影響が予想される場合。	
指 定 河 川 洪 水 予 報	河川の増水やはん濫等に対する水防活動の判断や住民の避難行動の参考となるように、あらかじめ指定した河川について、区間を決めて水位又は流量を示して発表される警報及び注意報。 ・天白川については、愛知県と名古屋地方気象台が共同で発表。	

2 大津波警報・津波警報・津波注意報

(1) 大津波警報・津波警報・津波注意報の発表等

気象庁は、地震が発生した時には地震の規模や位置をすぐに推定し、これらをもとに沿岸で予想される津波の高さを求め、地震が発生してから約3分（一部の地震※については約2分）を目標に、大津波警報、津波警報または津波注意報を、津波予報区単位で発表する。

この時、予想される津波の高さは、通常は5段階の数値で発表する。ただし、地震の規模（マグニチュード）が8を超えるような巨大地震に対しては、精度のよい地震の規模をすぐに求めることができないため、その海域における最大の津波想定等をもとに津波警報・注意報を発表する。その場合、最初に発表する大津波警報や津波警報では、予想される津波の高さを「巨大」や「高い」という言葉で発表して、非常事態であることを伝える。

※ 一部の地震とは、日本近海で発生し、緊急地震速報の技術によって精度の良い震源位置やマグニチュードが迅速に求められる地震をいう。

種類	発表基準	発表される津波の高さ		想定される被害と取るべき行動
		数値での発表 予想される津波高	巨大地震の場合の発表	
大津波警報	予想される津波の最大波の高さが高いところで3mを超える場合	10m超 10m<高さ	巨大	被害；巨大な津波が襲い、木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。 行動；沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難する。
		10m 5m<高さ≤10m		
		5m 3m<高さ≤5m		
津波警報	予想される津波の最大波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合	3m 1m<高さ≤3m	高い	被害；標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれる。 行動；大津波警報と同様。
津波注意報	予想される津波の最大波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合	1m 0.2m≤高さ≤1m	表記なし	被害；海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが流出し小型船舶が転覆する。 行動；海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れる。

※ 「津波の高さ」とは、津波がない場合の潮位（平常潮位）から、津波によって海面が上昇したその高さの差を言う。

※ 「予想される津波の高さ」とは、海岸線での値で、場所によっては予想された高さよりも高い津波が押し寄せることがあり、その旨を津波情報に記載。

※ 津波特別警報の名称は「特別警報」とは用いず「大津波警報」の名称で発表されるため、「大津波警報」の発表は、それが津波に関する特別警報が発表されたことを意味する。

(2) 津波警報等の避難のポイント

ア 震源が陸地に近いと津波警報・注意報が津波の襲来に間に合わないことがあるため、強い揺れや弱くても長い揺れを感じたときは、すぐに避難を開始する。

イ 津波の高さを「巨大」と予想する大津波警報が発表された場合は、東日本大震災のような巨大な津波が襲うおそれがあるため、直ちにできる限りの避難をする。

ウ 津波は沿岸の地形等の影響により、局所的に予想より高くなる場合があるため、ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難する。

エ 津波は長い時間くり返し襲ってくるため、津波警報・注意報が解除されるまでは、避難を続ける。

3 津波情報

津波警報・注意報を発表した場合には、津波の到達予想時刻や予想される津波の高さなどを津波情報で発表する。

津波情報の種類と発表内容

種 類	内 容
津波到達予想時刻・予想される津波の高さに関する情報	各津波予報区の津波の到達予想時刻や予想される津波の高さを発表（5段階のメートル単位）
各地の満潮時刻・津波到達予想時刻に関する情報	主な地点の満潮時刻や津波の到達予想時刻を発表
津波観測に関する情報（下記（1））	沿岸で観測した津波の時刻や高さを発表
沖合の津波観測に関する情報（下記（2））	沖合で観測した津波の時刻や高さ、及び沖合の観測値から推定される沿岸での津波の到達時刻や高さを津波予報区単位で発表

(1) 津波観測に関する情報の発表内容

ア 沿岸で観測された津波の第1波の到達時刻と押し引き、及びその時点までに観測された最大波の観測時刻と高さを発表する。

イ 津波は繰り返し襲い、あとから来る波の方が高くなることがあるため、観測された津波が小さいからといって避難を止めてしまうと危険であることから、最大波の観測値については、大津波警報または津波警報が発表中の津波予報区において、観測された津波の高さが低い間は、数値ではなく「観測中」の言葉で発表して、津波が到達中であることを伝える。

ウ 沿岸で観測された津波の最大波の発表内容

発表中の状況	観測された津波の高さ	内 容
大津波警報	1 m 超	数値で発表
	1 m 以下	「観測中」と発表
津波警報	0.2 m 以上	数値で発表
	0.2 m 未満	「観測中」と発表
津波注意報	(すべての場合)	数値で発表（津波の高さがごく小さい場合は「微弱」と表現）

(2) 沖合の津波観測に関する情報の発表内容

ア 沖合で観測された津波の第1波の観測時刻と押し引き、その時点までに観測された最大波の観測時刻と高さを観測点ごとに発表。また、これら沖合の観測値から推定される沿岸での推定値（第1波の推定到達時刻、最大波の推定到達時刻と推定高さ）を津波予報区単位で発表する。

イ 最大波の観測値及び推定値については、沿岸での観測と同じように避難行動への影響を考慮し、一定の基準を満たすまでは数値を発表しない。大津波警報または津波警報が発表中の津波予報区において、沿岸で推定される津波の高さが低い間は、数値ではなく「観測中」（沖合での観測値）または「推定中」（沿岸での推定値）の言葉で発表して、津波が到達中であることを伝える。

ウ 沖合で観測された津波の最大波（観測値及び沿岸での推定値※1）の発表内容

発表中の状況	沿岸で推定される津波の高さ	内 容
大津波警報	3 m 超	沖合での観測値、沿岸での推定値とも数値で発表
	3 m 以下	沖合での観測値を「観測中」、沿岸での推定値は「推定中」と発表
津波警報	1 m 超	沖合での観測値、沿岸での推定値とも数値で発表
	1 m 以下	沖合での観測値を「観測中」、沿岸での推定値は「推定中」と発表
津波注意報	(すべての場合)	沖合での観測値※2、沿岸での推定値とも数値で発表

※1 沿岸からの距離が 100km を超えるような沖合の観測点では、津浪予報区との対応付けが難しいため、沿岸での推定値は発表しない。また、最大波の観測値については数値ではなく「観測中」の言葉で発表して、津波が到達中であることを伝える。

※2 沿岸で推定される津波の高さが非常に小さい場合は、沖合での観測値を「微弱」と表現する。

(3) 津波情報の留意事項等

ア 津波到達予想時刻・予想される津波の高さに関する情報

- 津波到達予想時刻は、津波予報区のなかで最も早く津波が到達する時刻である。同じ予報区のなかでも場所によっては、この時刻よりも数十分、場合によっては1時間以上遅れて津波が襲ってくることもある。
- 津波の高さは、一般的に地形の影響等のため場所によって大きく異なることから、局所的に予想される津波の高さより高くなる場合がある。

イ 各地の満潮時刻・津波到達予想時刻に関する情報

- 津波と満潮が重なると、潮位の高い状態に津波が重なり、被害がより大きくなる場合がある。

ウ 津波観測に関する情報

- 津波による潮位変化（第1波の到達）が観測されてから最大波が観測されるまでに数時間以上かかることがある。
- 場所によっては、検潮所で観測した津波の高さよりも更に大きな津波が到達しているおそれがある。

エ 沖合の津波観測に関する情報

- 津波の高さは、沖合での観測値に比べ、沿岸ではさらに高くなる。
- 津波は非常に早く伝わり、「沖合の津波観測に関する情報」が発表されてから沿岸に津波が到達するまで5分とかからない場合もある。また、地震の発生場所によっては、情報の発表が津波の到達に間に合わない場合もある。

4 津波予報

地震発生後、津波による災害が起こるおそれがない場合は、以下の内容を津波予報で発表する。また、津波が予想されないときは、津波の心配なしの旨を地震情報に含めて発表する。

発表される場合	内 容
0.2m 未満の海面変動が予想されたとき	高いところでも 0.2m 未満の海面変動のため被害の心配はなく、特段の防災対応の必要がない旨を発表
津波警報等の解除後も海面変動が継続するとき	津波に伴う海面変動が観測されており、今後も継続する可能性が高いため、海に入っの作業や釣り、海水浴などに際しては十分な留意が必要である旨を発表

5 津波予報区

全国を 66 の津波予報区に分けて発表しており、県内の津波予報区は次のとおり。

津波予報区	区域	区域に属する市町村
愛知県外海	愛知県（伊良湖岬西端以東の太平洋岸に限る）	豊橋市、田原市
伊勢・三河湾	愛知県（伊良湖岬西端以東の太平洋岸を除く）	名古屋市、豊橋市、半田市、豊川市、碧南市、刈谷市、西尾市、蒲郡市、常滑市、 東海市 、知多市、高浜市、田原市、弥富市、飛島村、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町
	三重県（伊勢市以南を除く）	（三重県の市町村は省略）